

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：美土里中学校区

連携地域を構成する学校

| 学校名 | 学級数 | 児童生徒数 |
|--------|-----|-------|
| 美土里小学校 | 8 | 77 |
| 美土里中学校 | 3 | 54 |

(R5.12, 1現在(記入))

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

クリエイティブに思考し、表現する児童生徒の育成
～自分や集団の考えを発展させる

「学び合い」の授業を通して～

(2) 資質・能力の設定について

育成したい資質・能力の重点を論理的思考力・批判的思考力・楽観的思考力とした。

| 論理的思考力 | 批判的思考力 | 楽観的思考力 |
|--|--|---|
| 【小学校低学年】 自分の考えを理由をつけて、順序よく伝えている。 | 【小学校低学年】 伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 | 【小学校低学年】 興味・関心をもち、挑戦しようとする。 |
| 【小学校中学年】 身の回りにある課題に気付き、理由や事例をもとに筋道立てて伝えている。 | 【小学校中学年】 比較・分類して伝え合う事柄を選んでいる。 | 【小学校中学年】 自分で決めたことに挑戦しようとする。 |
| 【小学校高学年・中学校1年生】 現状から原因を見つけ、自分の考えや思いを広げ、伝えている。 | 【小学校高学年・中学校1年生】 分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討している。 | 【小学校高学年・中学校1年生】 失敗をおそれず、積極的に学びを繰り返そうとする。 |
| 【中学校2・3年生】 課題に対して、明確な根拠をもって思考・発言している。 | 【中学校2・3年生】 集めた情報を適切に取捨選択している。 | 【中学校2・3年生】 成功までのプロセスをイメージし、まずはやってみようとして挑戦している。 |

(3) 取組について

【すべての児童生徒が一人一探究】

発達段階における探究のイメージ

- ◆小学校1・2年生～豊かな体験からたくさんの気付きをもつ。
 - ・探究の芽を育てる。気付きの質を高める。
- ◆小学校3・4年生～豊かな体験をもとに問いを立て、自分なりの答えを出す。
 - ・自分の好き、知りたいをとことん追究する。
- ◆小学校5・6年生・中学校～すぐには答えの出ない問いを立て多様な方法で情報収集を行い、根拠に基づいて自分なりの答えを出し探究にする。
 - ・自分のため、誰かのためになる課題を設定する(小)
 - ・社会のため、誰かのためになる課題を設定する(中)

指導のポイント

- ◆自分事での探究になること
 - ・好きなことや興味のあることをテーマに問いを立て、課題を解決し、自分なりの答えを出す探究にする。
- ◆コーチング
 - ・一人一人に寄り添い、思いや考えを聴き、やりたいことを引き出し、課題解決の道りを伴走する。

2 実践事例

【一人一探究の基本的な流れ】

一人一探究に取り組むために、事前学習として次のことに取り組んだ。

小学校 **プレ探究**・・・小3・4年において、各クラス全体で問いの立て方や情報収集の仕方を学ぶ

中学校 **校外学習**・・・学年ごとに生徒の興味関心に基づいて校外学習へ出向き、広い視野をもち、発想を広げる

小中学校

- ①PBLってなんだろう (ガイダンス)
- ②体験しよう
- ③探究するテーマを決めよう
- ④問いを立てよう
- ⑤仮説を立てよう
- ⑥情報を収集しよう&やってみた!
- ⑦収集した情報を整理分析しよう (中間発表会)
- ⑧仮説を見直そう
- ⑨発表の準備をしよう (スライドや実演等)
- ⑩発表しよう・提案しよう
- ⑪自分たちの探究を振り返ろう

【個に応じた指導の充実】

◆手立て

小学校

プレ探究・・・共通の体験から気付き・問いをもつことができるようにする。学び方を学ぶ

【実際に出てきた問い】

- 3年生 美土里の生き物採集
 - ・どんなものを食べるのかな?
 - ・どうやってトンボになるのかな?
 - ・ヤゴとトンボが似ていないのはどうして?
- 4年生 安芸高田市の特産品
 - ・どういうきっかけで作り始めたのかな?
 - ・どうやって作るのかな?
 - ・材料は何だろう?どこから来ているのかな?
 - ・どんな気持ちで作っているんだろう?
 - ・味の秘訣は何だろう?



中学校

校外学習・・・県内の企業・スポーツ団体・施設など社会活動を支えている方々から学んだことをもとに「誰かのため・社会のため」につながるテーマを設定する

【実際に出てきたテーマ】

- ・日本に来た外国の人が、日本になじむために知っておきたいことは?
- ・最も効果のあるメンタルトレーニングとは、どのようなものなのだろうか?
- ・飢餓をなくすためにフードロス削減できることは有効なのだろうか?



- ◆小学生と中学生の学び合い・・・小学生のテーマについて、問い、仮説を中学生に見せて、分かりにくいところについて質問やアドバイスをしてもらい、自分の探究を見直した。



- ◆チームで進捗管理・・・担任だけでなく他学年の職員、小中学校の職員同士が情報交換をし、どのようにコーチングしていけばよいか、連携しながら取り組んだ。



- ◆進捗管理シートの活用・・・児童生徒の担当者を明確にし、対話の中で課題解決の考え方や方法の選択肢を示したり、一緒に実験をしたりするなどして進捗管理を行った。児童生徒の進歩をエクセルシートに入力し、誰もが指導できる体制を整えた。

3 研究の成果と課題等

一人一探究に取り組み、身に付いたと考えられる力は次のとおりである。

- ◆情報収集の力・・・欲しい情報を複数の方法で収集できるようになった。



インタビュー



文献



実験



実験

- ◆整理・分析の力・・・実際に試してみる際、道具をかえる、調べる時間帯をかえる等、条件制御しながら何回も記録をとったり、改善をしたりして条件をかえて比較する姿が見られるようになった。

- ◆ 資質・能力アンケートを行った結果

・小学校では、R4年度と比較した結果、次のとおりとなった。

【楽観的思考力】

「身の回りのことに興味関心をもち、繰り返しやってみようとする」86% (R4) →90% (R5)

【主体的な学び】

「学習する前に『もっと考えてみたい』『調べてみたい』『工夫してみたい』などを考えている。

88% (R4) →97.2% (R5)

「自分の問い（課題）をもつことができた。

88% (R4) →91.5% (R5)

・中学校では、R4年度と比較した結果、次のとおりとなった。

【楽観的思考力】

「情報をもとに、見通しをもって恐れずに探究的な学習を進めた。」98% (R4) →94% (R5)

【論理的思考力】

「仮説から結論まで、筋道立てて考えた」

89% (R4) →100% (R5)

【批判的思考力】

「物事をうのみこせず、目的や根拠を明確にして判断した。」

94% (R4) →95% (R5)

「いくつかの情報から情報を収集し、必要に応じて取捨選択したり、整理・分類したりした。」

98% (R4) →100% (R5)

(1) 成果

・小学校では、「学びを繰り返したり、挑戦したりする」という楽観的思考力に関する項目と「もっと考えてみたい」「調べてみたい」などの主体的な学びに関する項目が伸びた。授業の中で「学び合い」を生かし、他者と対話したり、協働的に情報を収集したりしながら課題を解決する力がついてきたことがこの結果につながったと考える。

・中学校では、「仮説から結論まで筋道をたてて考えた」という論理的思考力に関する項目と「情報を取捨選択する」という批判的思考力に関する項目が伸びた。テーマ設定から課題解決までの見通しをもち、どのように探究を進めていけばよいか理解することができたこと、また、スパイラルな活動の大切さに気付いたことが、数値の上昇につながったと考える。

(2) 課題

・小学校では、豊かな体験をもとに課題を設定し、自分の興味・関心のあることを探究した。しかし、まだ、問いを立てることや情報を比較して考えたり、自分の考えと結び付けたりすることについて難しさを感じている児童がいる。

・中学校では、「探究的な学習のやり方を他の教科等の学習や生活に役立てている。」の項目は、昨年度より上昇しているものの、今年度も全質問項目の中で最も低い数値となった。

(3) 今後の改善方策等

・問いを立てる力をつけるために、教科の授業において児童生徒のつぶやき等から、問いにつなげることを意識した授業づくりを行う。

・探究的な学習が生活に役立つものであることを実感させるため、児童会や生徒会活動において探究の過程に沿った取組を行う。

・来年度から、安芸高田市では全小中学校の代表児童生徒によるPBL発表会が実施される。他校の児童生徒との交流を積極的に取り入れる。